難波田城だより

―難波田城公園・難波田城資料館ニュース―

２０１３年冬号（通号 58 号）
NEWS from NANBATAJO
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
平成 25 年 12 月 1 日発行

「これからの富士見市（暮らしやすく、人と自然が共生できるまち）」

市民学芸員　酒井　正敏

富士見市の市制 10 周年（昭和 57 年･1982）の記念誌『富士見のあゆみ』にこれからの富士見市の基本構想に関する章があり、以下の内容が書かれています。

富士見市は急激に成長した新興都市であり、将来像として「文化的住宅都市」を目指し、公共施設の充実（市民会館、市民プール、水子貝塚史跡公園など）が必要であることが指摘されています。そのうえで次の文章が挙げられています。

「最後に住宅都市に欠かせないものとして、近代的ショッピング機能の整備があげられる。これは鶴瀬駅東口など中心部の再開発にもつながり（中略）住宅都市として発展していくためには、避けては通ることのできない重要な課題といえよう」

今年で富士見市が誕生して 41 年が経ち、31 年前に目標としていた壮大な計画も市民と行政の努力によりほぼ現実のものとなりました。残すは近代的ショッピング機能の整備による鶴瀬駅東口の機能的でバランスの取れた再開発のみとなりました。

私が富士見市民になったのは、今から 23 年前の平成 2 年（1990）12 月です。私の実家が上尾市で、家内の実家が所沢市だったため、その中間を新居としました。同じ埼玉に長年住んでいながら、その時初めて富士見市の存在を知ったのです。今でもそうですが、富士見市の知名度は非常に低いもので、知合いに住所を説明する時は必ずといっていいほど川越の地名を出しております。

我がふるさと富士見
（難波田城公園付近）

この知名度が低い我が富士見市ですが、住んでみると都心から 30 キロ圏内ということもあり通勤・通学・買い物には比較的便利で、かつ荒川低地（南畑地区）の田園風景がとても心地よく、本当に自慢できる街なのです。ただ、鶴瀬駅東口付近は衰退していく一方なのが気がかりでなりませんでした。

(仮称)ららぽーと富士見
着工現場

そんな中、10 月 30 日、朝日新聞に「ららぽーと富士見」着工の記事が載りました。

記事によると、三井不動産が富士見市役所前の国道 254 号バイパス沿いに大型ショッピングセンター「(仮称)ららぽーと富士見」（最寄駅は東武東上線鶴瀬駅）の建設工事を開始し、2 年後の平成 27 年（2015）春に開業予定とのことでした。

（仮称）ららぽーと富士見イメージ図（提供 三井不動産）

この記事を見て、都市として壮年期を迎えた我が富士見市にとって絶好の機会が訪れたことを強く感じました。ただし、この機会を最大限に生かすためには市民と行政が知恵を出し合い一体となって取り組むことが必要だと思います。

私も、難波田城資料館の市民学芸員としてこれを機に資料館や公園を沢山の方々に知っていただき、一人でも多くの「難波田城公園ファン」が増えるよう頑張りたいと思います（2 年なんてあっという間です。出来ることから始めねば…）。

市民学芸員のページ　＊このページは市民学芸員（広報担当）が原稿を執筆、編集しました。

こんなお宝がありました　資料館編

フイゴ

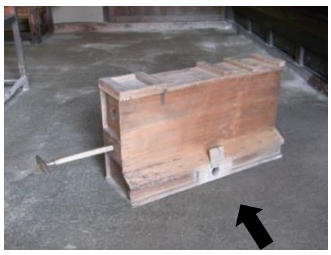
子どもの頃に歌った、『村の鍛冶屋』をご記憶でしょうか。

鍛冶屋は、金属を打ち鍛えて刃物や器を作る職人です。金属を柔らかくするための火に空気を送る道具がフイゴです。数ある道具の中でもフイゴは特別重要でした。フイゴの風の送り具合で製品の出来が決まるからです。

このフイゴは、先祖が石屋さんだった方から寄贈されたものです。ノミなどの道具を自分で手入れするために鍛冶屋の道具も持っていたのです。縦 90 cm×横 28 cm×高さ 49 cm の道具です。保存状態は良く、今使われていてもおかしくない感じです。

フイゴ内部の弁（風押し）の周囲には、一般的に空気漏れを防ぐため獣の毛皮（ウサギ、カワウソ、アナグマ等）が張られています。このフイゴの内部の弁の周囲もやはり獣の毛皮が張られています。

富士見市にはどのくらい鍛冶職人がいたのでしょうか。昭和 60 年の県による調査では、農具を作る野鍛冶職人が関沢に 1 軒、東大久保に 1 軒残っていました。また戦前には 5 軒あったといいます。（横田康男）



全体写真。張出部中央(矢印)から風が出ます。

カゼオシ（弁の部分）には毛皮が張られています。

おもしろ・なつかし体験㊷

わらぞうりづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

11 月 2 日にふるさと体験のわらぞうりづくりがあり、私も参加しました。講師は、いなほの会の方々でした。最初に、用意された材料の藁縄と藁を受け取ります。そして、ぞうり作りの開始です。

まず、藁のゴミやハカマ（根のあたりの葉）をとる「藁すぐり」、藁を叩くことで柔らかくし編みやすくする「藁打ち」を行います。次にぞうりを編んでいきます。準備された芯になる藁縄を、ぞうり編み台に引っ掛けて、藁すぐりや藁打ちをした藁で編んでいきます。10 cm位編みすすめたところで鼻緒の両端を編み込みます。鼻緒は各自が持参した筒状の布でくるみ、履きやすいようにします。そして自分の足の大きさに合うところまで編み、鼻緒（前の中央部分）を結びつけ完成です。

一つ一つの工程で各自が悪戦苦闘したものの、講師の方に教わりながら素敵な「マイぞうり」を完成させ、自分なりの満足感を味わい充実した一日を過ごすことができました。（村江　近人）

身体を使って編みます ▶

◀ 鼻緒をつけています

「マイぞうり」の完成！ ▶

人の創った道具★人の使った道具

富士見文化財かるた

～秋季企画展「郷土かるたの富士見」より～

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

郷土カルタ

特定の地域の史跡や名所、偉人、特産物などをテーマとしたかるたを「郷土カルタ」といいます。中でも有名なのは昭和 22 年(1947)に作られた群馬県の『上毛かるた』です。昭和 50 年(1975)頃から全国で作られるようになり、現在までに 2 千種類近くが制作されています(総数は web サイト“郷土かるた館”による)。

富士見文化財かるたの誕生

昭和後期に始まる郷土カルタブームに大きな役割をはたしたのが、『富士見文化財かるた』でした。

昭和 40 年代、高度経済成長による列島改造が進む中、各地で文化財愛護運動が起りました。その活動のひとつとして、兵庫県伊丹市と茨城県鹿島町で『文化財愛護かるた』が作られました。それらを参考に昭和 47 年(1972)、すなわち“富士見市誕生”の年に作られたのが『富士見文化財かるた』です。

富士見文化財かるたの制作者

このかるたを制作したのは「ふじみ版画の会」でした。同会は、鶴瀬団地に住んでいる主婦たちが結成し、版画家の小口益一氏（1918-2009）に指導を受けていました。身につけた各種の版画技法を市民文化祭で披露する作品としてカルタを制作しました。読み句は、同会会員で富士見郷土史同好会会員でもあった伊藤正和氏が詠み、解説文も書きました。これらの制作者はいずれも、数年前に富士見の住民となった人々でした。ベッドタウンに居を定めた人々が、新たなふるさとを学び・親しむ手段として作られたのです。

富士見文化財かるたの特徴

このカルタの第 1 の特徴は、大きさです。遊戯に不向きな葉書サイズは、版画作品として展示することが元々の目的だったからです。1 枚ずつ手刷りした鮮やかな色合で、箱も手づくりでした。

第 2 の特徴はアイウエオ順です。上毛かるたや伊丹・鹿島の文化財愛護かるたはイロハ順で、[い]の札にそのカルタを象徴する言葉が入ります。富士見は、[あ]の読み句に富士見市を象徴する言葉が入り、絵札に鶴瀬団地を採用しています。

第 3 の特徴は五七五です。先行する郷土カルタは「つる舞う形の群馬県」など七五の読み句が中心でしたが、俳句と同じ十七字を採用することで、親しみやすくなりました。

第 4 にイラストマップです。同時期に作られた『武蔵府中郷土かるた』には、文化財の分布図が付いています。富士見文化財かるたはそれを参考にして、増し刷りする時に、文化財のイラストを配したイラストマップを作成したのです。

広まる郷土カルタ

富士見文化財かるたは、制作直後から新聞記事となり、テレビでも放送されました。そして、小口氏が雑誌で、市長が全国市長会で、紹介しました。

ブームは富士見市近隣の入間地区と府中市近隣の多摩地区から、全国に広まっていきました。それら、ブーム後の郷土カルタの多くが、前記の第 2 から第 4 の特徴を継承しています。富士見文化財かるたは、郷土カルタの歴史に大きな役割を果したのです。

しかも、多彩な技法を駆使した手刷り版画は追随が困難で、いまだに際立った個性を輝かせています。このカルタそのものが“文化財”なのです。（早坂廣人）

＊＊＊冬のイベント予定＊＊＊

●企画展情報

平成 25 年秋季企画展「郷土かるたの富士見」

昭和 47 年(1972)に作られた「富士見文化財かるた」を中心に、市民が創作したカルタや市内の文化財を紹介しています。

会　期／10 月 19 日（土）～1 月 13 日（祝）
会　場／特別展示室

●扇だこづくり

かつて富士見市の特産品として知られた郷土民芸「扇だこ」をつくります。

と　き／12 月 14 日(土)～15 日(日)　全 2 回
午前 10 時～午後 3 時
ところ／講座室
定　員／10 名(中学生以上)※申し込み順
参加費／1000 円(材料代)
持ち物／エプロン(前掛け)、昼食､にぎりばさみ(持っている方)
指　導／扇だこ保存会
申込み／随時、電話か直接

●子ども書初め練習会

と　き／12 月 23 日（祝）　午前 10 時～午後 3 時
ところ／講座室
持ち物／書道セット、書初め用紙
指　導／硯友会(けんゆうかい)
申込み／不要。2 時までに会場へお越しください

●餅つき実演と餅の販売

ちょっ蔵市で、餅つきの実演とつきたての餅の販売をします。

と　き／12 月 23 日（祝）　午前 11 時～午後 1 時頃
※売切れ次第終了です。
ところ／旧金子家住宅
主　催／難波田城公園活用推進協議会

●正月飾り材料の共同購入

引き渡し／資料館で 12 月 27 日(金)午後 1 時～3 時
申込み　／12 月 1 日（日)～12 月 22 日（日）
午前 9 時～午後 5 時
資料館へ電話で。締切り後のキャンセルはご遠慮ください。
費　　用／1 セット 1000 円
主　　催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

と　き／12 月 28 日（土）　午前 10 時～正午
ところ／旧金子家住宅
定　員／15 名(市内在住･在勤の方) ※申し込み順
参加費／1200 円(材料代)
持ち物／ハサミ
指　導／吉川節男(きっかわせつお)氏
申込み／12 月 1 日(日)午前 9 時から電話か直接

●消防訓練

1 月 18 日午後、古民家の消防訓練を行います。当日来館の皆様もご協力・ご参加をお願いします。

●古文書教室

市内に残された江戸時代の古文書を解読しながら、当時の歴史や文化を学びます(全 3 回)。

と　き／1 月 18 日(土)・25 日(土)・2 月 1 日(土)の午後 2 時～4 時　全 3 回
ところ／講座室
講　師／山野健一(当館職員)
参加費／無料

●ふるさと体験　手作り味噌づくり

と　き／3 月 1 日（土）　**ところ**／旧金子家住宅

＊各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどをご覧下さい。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月29日(日)から1月3日(金)まで休館です。公園は無休で、午前 9 時から午後 5 時まで開園しています。

難波田城(なんばたじょう) FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM
編集・発行／富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1　TEL. 049-253-4664　Fax. 049-253-4665
富士見市役所公式ホームページ　http://www.city.fujimi.saitama.jp
◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始　開館時間／午前 9 時～午後 5 時
◇公園休園日／なし　開園時間／午前 9 時～午後 6 時（4 月～9 月）　午前 9 時～午後 5 時（10 月～3 月）